

雅楽演奏

【管絃】

太食調音取(たいしきちょうのねとり)

音取(ねとり)とは、演奏の雰囲気を作る曲のことで、無拍子の前奏曲ともいえる、短い曲のことで、合奏(がっそう)に先立って、楽器の音律を整えるときにも、その調子の独特の音階を知らせるための曲です。

合歡塩(がつかえん) 管絃・舞楽曲。唐楽。

「楽家録」によると、合歡の楽は五音が調い、歓喜の声を備えているといわれた故に、合歡塩と名付けられたようです。舞楽「太平楽」の時には、急の舞いの曲として演奏されます。

嘉辰(かしん)

「和漢朗詠集」。御遊や公宴等で多用された祝言歌。※朗詠は漢詩を訓読みするのが普通ですが、これは音読みする唯一の曲です。

抜頭(ばとう)管絃・舞楽曲。唐楽。

天平年間に、インドの婆羅門僧正と林邑(ベトナム)の僧侶哲により、我が国に伝えられたといわれています。抜頭は聖域の物で、胡人が猛獣に殺され、その子が野山にその獣を探し求め、ついに父の仇を打ち歓喜する姿を舞いにしたものであるともいわれ、また、唐の妃が嫉妬して鬼になった姿の舞いであるともいわれています。数年前は舞楽で演奏しましたが、今回は管絃で演奏します。

【国風歌舞(くにぶりのうたまい)】

久米舞(くめまい)

雅楽の国風歌舞に属する歌曲。また、皇室にゆかりのある宮中の儀式用の歌舞です。「記紀」に、神武天皇の東征の際に作られたことが語られているように、大変古い歌舞です。舞は、神武天皇の古代政権統一を象徴するといわれています。

【舞楽】

陵王(りょうおう)管絃・舞楽曲。唐楽。

およそ1500年前、中国に北齊という国があり、その王である蘭陵王長恭は才知武勇にして容姿端麗であったため、戦をしても味方の士気が上がらず、そこで厳めしい面つけて戦に臨んだところ、士気揚々にして周りの大軍を破り大勝利をおさめました。その後、蘭陵王の武勇は天下に轟き、舞になって伝えられたようです。国分寺まつりに初めて出演した際にも演奏した曲です。

映像作品



田村吾郎(RamAir.LLC)

群馬県の子どもたちを対象にワークショップを実施し、天平時代をイメージした絵や模様を制作。子どもたちの描いた絵をコンピューターで処理し、「天平時代の風景」と「天平文様」をテーマとした映像に仕上げた。このようにして完成した作品を、雅楽の演奏に合わせて上映することで、空間に「万葉集」をテーマにした幻想的な雰囲気を感ぜさせる。

映像制作協力 二葉特別支援学校、国府学童保育クラブ、元総社北こどもクラブ



下村奈那(SENJU LAB)

花々の動きから見つかる小さな発見は、遠い宇宙を想像することを表している。水中に浮かぶ花々は、星空と呼応しているかもしれない。点と点でつなぐ平面として星座は認識されているが、それは何億光年もの距離を繋ぎ合わせた空間である。私たちは日常的に過去の空間も見ているのである。

出演

雅楽の演奏

高崎雅楽稽古所(たかさきががくけいこしょ)

平成12年発足。5周年を迎えた平成17年に会名を制定。正式名称を高崎雅楽稽古所、通称を楽終会と名付ける。

単なる嗜み程度の活動ではなく、会員数が少ないながらも、普段の稽古(週2~3回)のほか、雅楽道友会の講師を招いて月1回の講習を開催し、これにより会員が正しい演奏技術を身に付け、それを次代の人たちへ継承するために、地道に稽古に励んでいる。稽古に明け暮れている当会ではあるが、もちろん演奏活動も時々行っており、市内への雅楽の普及にも努めている。

雅楽道友会(ががくどうゆうかい)

昭和42年、元宮内式部職楽部楽師故園広教氏を中心に有志が集い、民間への雅楽の普及および技術向上を目的とし発足する。

現在も園広教氏の内弟子であった楽師を中心に恩師の名「広く教え伝える」を旨として正しい古典の継承に励むことと、会の名称である「雅の道の友」の集まりであり続けることを指針に、演奏活動や会員の育成をはじめ、各地の雅楽団体への技術指導にも取り組む古典専門の雅楽集団である。

ダンス

加藤楓子(かとうふうこ)

1998年12月生まれ Tajima Dance Academy Pro 学院長

現在は公演振り付け演出指導、ダンサー。

◇活動履歴◇

2歳半よりダンスを始める。以後、20年間 Tajima Dance Academy 主催の自主公演に立ち続ける。(後援:群馬県、群馬県教育委員会他、群馬県県民会館、桐生市文化会館、横浜赤レンガ倉庫など)スタジオ独自の脚本に基づきストリートダンスや世界の民族舞踊で物語を表現する新しい表現のステージ。その他、各企業、公的機関のダンスイベントにも多数出演し演出、振り付けも担当する。現在、県内の幼稚園、保育園のダンス指導も行う。

ダンサー 小寺聖羅(こでらせいら)

Tajima Dance Academy Pro インストラクター

ダンサー 鈴木歌恋(すずきかれん)

3歳よりクラシックバレエを始める。山本禮子バレエ団附属研究所 研究生として練習に励む。

映像

田村吾郎 アーティスト集団: RamAir.LLC /代表

2002年 東京芸術大学大学美術学部デザイン科卒業、同大学院美術研究科博士課程へ進み、ソウル大学で研究活動を経て2007年に修了後、東京芸術大学美術学部デザイン科教育研究助手。2010年~東京工科大学デザイン学部専任講師。大学で教育に従事する傍ら、アートディレクター、クリエイティブプロデューサーとして企業、音楽団体、ホール、音楽祭などのブランディング、映像を駆使した斬新な手法で演奏会やオペラなどの演出を手がけている。近年では大型球体スクリーン「WV Sphere5.2」など、装置などの開発も手がけ、アート、テクノロジー、デザイン、経済、文化などあらゆる領域を包括的に捉え、様々なジャンルのプロデュース、ディレクションを実行している。

下村奈那

1990年生まれ。福岡県出身。

2017年東京芸術大学大学院修了。2014年に SENJU LAB 第1期生として参加。清澄白河アトリエタキグチを拠点に書の研究を基にした制作活動を行う。東京ミッドタウンアワード2018アートコンペ 準グランプリ受賞、他個展・グループ展等。

SENJU LAB

作曲家であり東京芸術大学特任教授の千住明が主宰する、ジャンルを超えたコラボレーションを生み出す総合芸術の実験室。東京藝大の全ての学生さらには卒業生をも対象とし、2015年にスタートした創作ワークショップ。これまで様々な領域横断的・実験的な作品制作、プロジェクト企画が行われている。



加藤楓子



左・小寺聖羅 右・鈴木歌恋



田村吾郎



下村奈那



千住明

万葉集の朗読「折々の歌」

群馬県戦略的文化芸術創造事業



2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

^{むつき}正月立ち春の来らば かくしこそ梅を招きつつ 楽しき終へめ 大伴旅人

訳)：正月になって春がやってきたら、こうやって梅を見ながら楽しみましょうよ。

※この歌は、大伴旅人の邸宅で詠んだ梅の歌三十二首の最初の歌です。これらの歌に先立って、序文が新元号「令和」の元となった漢文で記載されています。

^{いわばし}石走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも 志貴皇子

訳)：岩を流れる滝のほとりのワラビが芽を出してくる春になったんですね。

今さらに雪降らめやもかぎろひの燃ゆる春へとなりしものを 読み人知らず

訳)：今さら雪は降りはいらないだろう。陽炎(かげろう)の燃える春日となったのに。

^{しろたえ}春過ぎて夏来るらし白栲の衣干したり天の香具山 持統天皇

訳)：春が過ぎて、夏が来たらしい。白妙の衣が香久山の方に見えます。

石麻呂に我れ物申す夏瘦せによしといふものぞ鰻捕り食せ 大伴家持

訳)：石麻呂さんに申し上げますよ。夏瘦せに良いそうですから鰻を捕って食べてくださいな。

^{こぬれ}夏山の木末の茂に ^{ほととぎす}霍公鳥 ^{とよ}鳴き響むなる声の ^{はる}遙けさ 大伴家持

訳)：夏山の梢の茂みで霍公鳥があたりに響くように鳴いています。その声ははるか遠くまで聞こえます。

夕されば小倉の山に鳴く鹿は今夜は鳴かず寝ねにけらしも 舒明天皇

訳)：夕方になると鳴く鹿だが、今夜は鳴かない。鳴かないで寝てしまったようだなあ。

君待つと我が恋ひ居れば我が宿の簾動かし秋の風吹く 額田王

訳)：あなたを待って恋しく思っていたら私の家の簾を動かして秋風が吹きます

秋去れば置く露霜にあへずして都の山は色づきぬらむ 遣新羅使

訳)：秋がやってくると、露や霜に耐えかねて都の山は紅葉したでしょう。

わが背子と二人見ませば幾許かこの降る雪の嬉しからまし 光明皇后

訳)：あなたと一緒に二人で見れば、どれだけこの降る雪が嬉しく思われるのでしょうか。

^{かみ}上つ毛野 ^{けの}伊香保の嶺ろに降る雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり

訳)：毛野の伊香保嶺に降る雪が嶺にさざぎられて降り続いているように、私も愛しい妻の家のあたりを過ぎ過ぎていく感じがします。

※この歌は東歌とよばれ、伊香保は榛名山を指します。

み雪降る冬は今日のみ ^{うぐいす}鶯の鳴かむ春へは明日にしあるらし 三形王 (みかたのおおきみ)

訳)：雪の降る冬は今日まで。鶯が鳴く春は、明日からでしょう。

万葉の時代へといざなう 雅楽の演奏と映像の上映



国指定史跡 上野国分寺跡
開演17:30(開場17:00 19:10終演予定)



万葉集とは…7世紀後半から8世紀後半にかけて編纂された、日本に現存する最も古い和歌集。

主催：群馬県、群馬県戦略的文化芸術創造事業実行委員会、上野国分寺まつり実行委員会、群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会

第10回 上野国分寺まつり

令和元年10月20日(日)9:00~16:30

